

帰省した折に目にした新聞に「求む 行動力・柔軟性」と見出しがあり、多くの企業が新入社員に求めるのは、「積極的な行動力」と「柔軟な協調性」だとアンケート調査の結果が報じられていました（中日新聞5月7日）。3番目は「人柄・責任感」で、この3項目で全体の7割を占めており、この意味は「知識や専門性は入社後でも身につけられる」、それよりも「仕事に取り組む姿勢や対応力に期待している」という企業側の考え方の反映であるとコメントがありました。高度経済成長のころとは異なり、企業もグローバル化の下でのイノベーションが求められており、そのあり方も変化していると見てとれます。時代の中で望む社員像もまた変わっていくと想像できます。

福祉の世界においても大きな変化があります。社会福祉法人としての新しいあり方、行動が求められてきているのです。これからは地域の課題解決のために、様々な方々と共に行動する「プロ集団」であることが期待もされ、また責務ともなります。我々はそれに応えられるようになりたいと思います。

茂木健一郎氏は、NHK テレビの「プロフェッショナル－仕事の流儀」という番組に関わった経験から、プロフェッショナルとは①倫理性(自己規律)、②利他性が常に行動のもとになっている、そして③セキュアベース(安全基地)を持ち、④ロールモデル(尊敬できる人)がある、という4つの共通するものがあると言います(*)。私もこの考えに共鳴します。

先の新聞記事は企業側の視点でしたが、茂木健一郎氏はそれぞれの世界でのプロと言われる人に添って、その内的なあり方、メンタリティを解いています。法人の職員も日々努力を重ねておりますが、若手もベテランもこの4つの側面を手掛かりにして「プロ度」をさらに磨いて欲しいと私は願っています。

*ハーバードビジネスレビュー別冊 2009年

(平成28年8月)